

ご挨拶

京友会会長 津田 仁

京友会のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。平素より同窓会の運営にご支援ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行され、人の往来や交流にも活気が戻ってきたように思います。私共京友会が主催する「新入生・編入生歓迎交流会」も今年は久しぶりに対面を主として、ハイブリッド方式で開催することが出来ました。

4月20日、百周年時計台記念館国際交流ホールに新入学の学生、院生をはじめ100名を超える参加者が、数名ずつそれぞれ円卓を囲み、ささやかですが食事もとりながら歓談し、交流を深めました。私も学生さんたちの話を、何かできる支援はないか、という思いで聞かせていただきました。また、教育学部の10数名の先生方のお言葉を短時間とは言え、一度に聞かせていただく機会を得たのは初めてで、自分自身が新入生になったような気持ちで、実に多彩で、個性的な先生方のスピーチをお聞きできました。先生方の学生への思いが伝わり、学生のみなさんにとってはとてもいい機会、オリエンテーションにもなったのではないかなと思いました。

7月の令和5年度総会・講演会・懇親会も、学生会員を含め、多数のご参加を得て、ハイブリッド方式で開催いたしました。総会、講演会、懇親会のどれをとってももっと時間がほしい！と思う盛りだくさんの内容でした。講演会終了後、神戸発のフェリーに乗って九州に向かわなくてはならない堀真一郎様にぎりぎりの時間までお話を伺うというスリリングなことにもなっていました。懇親会後には、就職の内定を得ている学生から、同じ業界で先輩が活躍されていると聞いたのでぜひ紹介してほしい、という問い合わせもあつたりしました。

「新入生・編入生歓迎交流会」「総会・講演会・懇親会」とも、対面を主とする形に戻り、同窓会活動の不易な良さを再確認することができたように思います。

一方で総会には、例年の事業報告、会計報告、予算案に加え、現状の実態に合致した会則の改正案、個人情報保護法の適用に対応する名簿発行について、入会手続きの適正化、会費徴収の改正案など時代の潮流や社会環境の変化に対応し、同窓会活動をアップデートする提案を多くお諮りいたしました。

イノベーションを興す組織は一体性ととともに多様性を有しているといわれます。「同窓」というつながりは、私たち一人ひとりにとってはそれぞれの属性の一つにすぎません。したがって同窓会は緩やかなところからつながっていく組織だと私は思いますが、「同窓」という共通項は、時に独善的と思われるほど強固な「絆」をつくりあげます。しかし、そういった組織は強いのは強いですがその排他性ゆえに、外に向かって開かれ、より豊かな関係性を育む組織とはならないでしょう。変化と多様性の一層増す社会にあつて、同窓会も「同窓」という共通項から生まれる一体性ととともに豊かな多様性を包含し育む運営を推進することが一層求められるようになってきていると考えます。

会員の皆さまには、今後とも、一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝、ご活躍をお祈りいたしまして、挨拶とさせていただきます。



令和5年度 役員会・総会・講演会報告

令和5年7月9日（日） 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール I（Zoomによるハイブリッド開催）

*役員会

*総会

議 案

1. 総会における議長選出に関する会則改正案について
2. 令和4年度事業報告
 - ①令和4年度事業報告
 - ②令和4年度 京友会国際賞 選考結果
 - ③令和4年度 研究助成事業 事業報告
 - ④令和5年度 研究助成事業 選考結果
 - ⑤京友会緊急生活支援事業
3. 令和4年度会計報告
4. 京友会役員の変更
5. 令和5年度事業計画
6. 名簿発行について
7. 会報への広告の掲載について
8. 入会手続きについて
9. 会費の改正について
10. 幹事手当の財源変更について
11. 次の周年事業について
12. 令和5年度予算案

*講演会

講演者名 きのくに子どもの村学園 堀 真一郎 氏

令和4年度事業報告

1. 令和4年度実施事業報告

〈同窓会〉

令和4年7月9日 役員会・総会・懇親会
(ハイブリッドにて開催)

令和4年11月 『会報』発行(第39号)

令和5年3月24日 卒業生・修了生歓送会(中止)
卒業証書授与式で記念品贈呈
役員会(ハイブリッドにて開催)

令和5年4月20日 新入生・編入生歓迎交流会
(ハイブリッドにて開催)

通年 ホームページ

〈70周年記念事業〉

令和4年7月9日 令和3年度国際賞表彰

令和4年7月11日～令和5年3月31日

令和4年度京友会研究助成事業

令和5年2月 京友会国際賞募集(令和4年度)

令和5年4月

学部生向け活動支援募集(令和4年度)

令和5年4月20日 在学生向けの寄贈品贈呈

(新入生・編入生歓迎交流会にて)

令和5年5月

京友会研究助成事業募集(令和5年度)

令和5年5月26日

京友会国際賞審査会(令和4年度)

京友会研究助成事業審査会(令和5年度)

〈京友会緊急生活支援事業〉

令和4年8月 京友会緊急生活支援事業 第10弾

令和5年度事業計画

〈同窓会〉

令和5年7月9日 役員会・総会・懇親会
(ハイブリッドにて開催)

令和5年11月 『会報』発行(第40号)

令和6年3月26日 卒業生・修了生歓送会・役員会

令和6年4月 新入生・編入生歓迎交流会
通年 ホームページ

〈70周年記念事業〉

令和5年7月9日 総会にて令和4年度国際賞表彰
令和5年7月10日～令和6年3月31日

令和5年度京友会研究助成事業
令和5年8月～9月

学部生向け活動支援募集(令和5年度)
活動支援審査会・役員会でのプレゼンテーション

令和6年2月 京友会国際賞募集(令和5年度)

令和6年4月 在学生向けの寄贈品贈呈
(新入生・編入生歓迎交流会にて)

令和6年5月

京友会研究助成事業募集(令和6年度)

京友会国際賞審査会(令和5年度)

京友会研究助成事業審査会(令和6年度)

同窓会 令和4(2022)年度決算報告

(令和4(2022)年6月1日～令和5(2023)年5月31日)

収入

| 科目 | 令和4年度予算案 | 決算 | 差引 |
|--------------------|---|-----------|--|
| 前年度繰越金 | 1,035,461 | 1,035,461 | 0 |
| 会費 | 1,600,000 | 1,835,000 | 235,000 |
| 寄附 | 0 | 3,000 | 3,000 |
| 懇親会会費 | 0 | 0 | 0 |
| 2021 新入生歓迎会会費(協力金) | - | 4,000 | 4,000 |
| 新入生歓迎会会費 | - | 58,000 | 58,000 |
| その他 雑費収入 | 4 | 0 | 0 |
| 利息 | 4 | 3 | -1 |
| 計 | 2,635,465 | 2,935,464 | 299,999 |
| 会費詳細 | (一般) ¥2500 × 367 口 (修士・博士) ¥2500 × 79 口 (学生) ¥4000 × 58.5 口 (入会金) ¥6000 × 81 口 | | 917,500 197,500 234,000 486,000 |
| | 合計 | | 1,835,000 |

支出

| 科目 | 令和4年度予算案 | 決算 | 差引 |
|---------------|-----------|-----------|----------|
| 事業費 | 332,000 | 243,722 | -88,278 |
| 幹事手当 | 960,000 | 666,600 | -293,400 |
| 賃借料 | 25,800 | 68,800 | 43,000 |
| 印刷費 | 690,000 | 697,900 | 7,900 |
| 郵送費 / 通信費 | 191,700 | 208,041 | 16,341 |
| 消耗品 | 5,000 | 4,025 | -975 |
| 旅費・交通費 | 36,000 | 36,000 | 0 |
| 会議費 | 12,000 | 9,500 | -2,500 |
| 委託費 | 35,000 | 83,880 | 48,880 |
| 講師謝金 | 50,000 | 50,000 | 0 |
| 慶弔 / 交際費 | 30,000 | 0 | -30,000 |
| 払込手数料(口座徴収料金) | 2,000 | 0 | -2,000 |
| 支払手数料 | 2,000 | 1,650 | -350 |
| 雑費 | 10,000 | 0 | -10,000 |
| 次年度繰越金 | 253,965 | 865,346 | 611,381 |
| 計 | 2,635,465 | 2,935,464 | 299,999 |

70周年記念事業 令和4(2022)年度決算報告

(令和4(2022)年6月1日～令和5(2023)年5月31日)

収入

| 科目 | 令和4年度予算案 | 決算 | 差引 |
|-------------|-----------|-----------|---------|
| 前年度寄付金繰越金 | 5,249,265 | 5,249,265 | 0 |
| 寄附金 | 0 | 0 | 0 |
| 研究助成返金 | - | 42,285 | 42,285 |
| 70周年記念事業へ移管 | - | 123,060 | 123,060 |
| 利息 | 30 | 41 | 11 |
| 計 | 5,249,295 | 5,414,651 | 165,356 |

支出

| 科目 | 令和4年度予算案 | 決算 | 差引 |
|-----------|-----------|-----------|----------|
| 京友会研究助成事業 | 300,000 | 300,000 | 0 |
| 同窓会国際賞賞金 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 活動支援事業 | 100,000 | 0 | -100,000 |
| 在学生向けの寄贈品 | 50,000 | 49,782 | -218 |
| 審査委員会経費 | 0 | 0 | 0 |
| 消耗品費 | 1,000 | 0 | -1,000 |
| 郵送・通信費 | 3,000 | 0 | -3,000 |
| 事務補助謝金 | 0 | 0 | 0 |
| 支払手数料 | 3,000 | 1,397 | -1,603 |
| 雑費 | 5,000 | 0 | -5,000 |
| 次年度繰越金 | 4,687,295 | 4,963,472 | 276,177 |
| 計 | 5,249,295 | 5,414,651 | 165,356 |

学生生活支援事業 令和4(2022)年度決算報告

(令和4(2022)年6月1日～令和5(2023)年5月31日)

収入

| 科目 | 令和4年度予算案 | 決算 | 差引 |
|-----------|----------|---------|--------|
| 前年度寄付金繰越金 | 435,120 | 435,120 | 0 |
| 寄附金 | - | 40,000 | 40,000 |
| 計 | 435,120 | 475,120 | 40,000 |

支出

| 科目 | 令和4年度予算案 | 決算 | 差引 |
|-------------|----------|---------|---------|
| 第10弾 令和4年8月 | 430,000 | 350,000 | -80,000 |
| 郵送・通信費 | 0 | 0 | 0 |
| 支払手数料 | 3,000 | 2,060 | -940 |
| 雑費 | 0 | 0 | 0 |
| 70周年記念事業へ移管 | 2,120 | 123,060 | 120,940 |
| 計 | 435,120 | 475,120 | 40,000 |

同窓会 令和5(2023)年度予算案

(令和5(2023)年6月1日～令和6(2024)年5月31日)

収入

| 科目 | 令和4年度予算案 | 令和5年度予算案 |
|----------|-----------|-----------|
| 前年度繰越金 | 1,035,461 | 865,345 |
| 会費 | 1,600,000 | 1,500,000 |
| 寄附 | 0 | 0 |
| 懇親会会費 | 0 | 15,000 |
| 新入生歓迎会会費 | 0 | 40,000 |
| その他 雑費収入 | 0 | 0 |
| 利息 | 4 | 3 |
| 計 | 2,635,465 | 2,420,348 |

支出

| 科目 | 令和4年度予算案 | 令和5年度予算案 |
|---------------|-----------|-----------|
| 事業費 | 332,000 | 310,000 |
| 幹事手当 | 960,000 | 600,000 |
| 賃借料 | 25,800 | 77,600 |
| 印刷費 | 690,000 | 610,000 |
| 郵送費 / 通信費 | 191,700 | 200,000 |
| 消耗品 | 5,000 | 5,000 |
| 旅費・交通費 | 36,000 | 36,000 |
| 会議費 | 12,000 | 10,000 |
| 委託費 | 35,000 | 50,000 |
| 講師謝金 | 50,000 | 50,000 |
| 慶弔 / 交際費 | 30,000 | 30,000 |
| 払込手数料(口座徴収料金) | 2,000 | 1,000 |
| 支払手数料 | 2,000 | 2,000 |
| 雑費 | 10,000 | 50,000 |
| 次年度繰越金 | 253,965 | 388,748 |
| 計 | 2,635,465 | 2,420,348 |

70周年記念事業 令和5(2023)年度予算案

(令和5(2023)年6月1日～令和6(2024)年5月31日)

収入

| 科目 | 令和4年度予算案 | 令和5年度予算案 |
|-----------|-----------|-----------|
| 前年度寄付金繰越金 | 5,249,265 | 4,963,472 |
| 寄附金 | 0 | 0 |
| 利息 | 30 | 30 |
| 計 | 5,249,295 | 4,963,502 |

支出

| 科目 | 令和4年度予算案 | 令和5年度予算案 |
|-----------|-----------|-----------|
| 京友会研究助成事業 | 300,000 | 400,000 |
| 同窓会国際賞賞金 | 100,000 | 150,000 |
| 活動支援事業 | 100,000 | 100,000 |
| 在学生向けの寄贈品 | 50,000 | 50,000 |
| 審査委員会経費 | 0 | 0 |
| 消耗品費 | 1,000 | 1,000 |
| 郵送・通信費 | 3,000 | 3,000 |
| 事務補助謝金 | 0 | 150,000 |
| 支払手数料 | 3,000 | 3,000 |
| 雑費 | 5,000 | 5,000 |
| 次年度繰越金 | 4,687,295 | 4,101,502 |
| 計 | 5,249,295 | 4,963,502 |

役員会より

(2023年3月24日役員会)

- ・Facebookの継続について、70周年記念事業として始めたFacebookの名称を「京都大学教育学部(京友会)」に変更、役員会の様子をアップするなど、年に数回くらいでよいので追加する方向で検討を進める事とした。
- ・在校生向け寄贈品について、学生が(事務や学生担当教員の了承を受け)学部自治会や院生評議会で取りまとめて見積もった品目を確認し、本館2階と4階のオープンスペースラボラトリ(各自PCを持ち込んでの演習室)への備品の購入を進めることとなった。
- ・2023年度同窓会総会の日程・スケジュール等について、ハイブリッド開催とした。また親睦会も飲食を伴う方向とした。
- ・名簿作成に関して、特に75歳以上の会員の方への対応についてどのように年齢確認をするか議論となったが、引き続き検討を継続する事となった。

(2023年7月9日役員会)

- ・令和4年度の京友会の事業について、京友会70周年記念事業・緊急生活支援事業も含めて事業報告と会計報告が行われた(総会で承認)。
- ・令和4年度国際賞受賞者、令和4年度研究助成事業採択者、令和5年度研究助成事業対象者について報告された(総会で承認)。
- ・教育学研究科長の交代に伴い新しい副会長が報告された。
- ・令和5年度の京友会の事業について、京友会70周年記念事業も含めて事業計画と予算案が了承された(総会で承認)。
- ・総会における議長選出に関する会則改正案について、(5)「議長は会長が務める。もしくは、会長が委嘱し、議決により認められた者が務める。」に直す形で了承され、(4)の表現も「決める」を「決する」に変えるなどの案へ変えて、総会に提案することとした(総会で承認)。
- ・名簿発行について、個人情報取り扱いについて検討を重ねるため、今年度発行から延期することとした(総会で承認)。
- ・入会手続きについて、現行の会則では、教育学部・教育学研究科に在籍する者は、もれなく自動的に同窓会会員になるとも読めるが、昨今の同窓会などを取り巻く現状を踏まえ、「本会は、次の会員によって構成される。」と変更する事が了承された(総会で承認)。
- ・会報への広告の掲載について、名簿の過去の掲載例を提示のうえ、広告の掲載について了承された(総会で承認)。
- ・幹事補助の財源の変更について、70周年事業に関する作業時間に関しては70周年記念事業の予算から支出する事が了承された(総会で承認)。
- ・会費の改正について、学生会員(学部生)の年会費を無料に、一般の会員の年会費2500円については大学院生の会員は2000円に、一般の会員は3000円に変更する事が了承された(総会で承認)。
- ・次の周年事業について、今回は80周年記念事業を2029年に予定する事が了承された。

※同窓会名簿の発行延期について

昨年秋の同窓会会報送込に併せて各会員に対して同窓会名簿の掲載情報の確認を行ったところ、返信があったのは約700件にとどまり、個人情報保護法が同窓会にも適用されている状況において、より多くの会員の皆様に掲載情報を確認していただく必要があるとして、同窓会名簿の発行を延期し、引き続き掲載情報の確認を行うこととしました。

今回も、掲載情報の確認について同封しております。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※会費の改正について

諸経費高騰などにより同窓会の運営が厳しい状況にあることに加え、会費収入の約5割を学生・大学院生の入会金・年会費に依存している現状を改善することを目的として、会費の改正をお願いすることになりました。学生会員については入学時に入会金及び4年間の会費として10,000円を納入頂いていましたが、経済的なゆとりがない場合も多い学生もいる中、令和5年度より学生会員(学部生)の年会費を1,000円から無料に引き下げることにいたしました。一方、一般の会員の年会費2,500円について、大学院生の会員については2,000円に引き下げ、一般の会員の年会費を3,000円に値上げすることを、今年の総会にて承認いただきました。なお、75歳以上(2024年4月1日時点)の会員の方の会費納付は、引き続き任意としております。ご理解のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

※会報への広告の掲載について

総会において、会報への広告掲載について承認いただきました。今回も、少し掲載させていただいております。今後の掲載募集については、追ってご連絡いたします。

令和5年(2023年)度 役員名簿

| 役職 | 氏名 |
|------|--------|
| 会長 | 津田 仁 |
| 副会長 | 齊藤 智 |
| | 有田 禎宏 |
| 委員 | 沖吉 和祐 |
| | 南部 啓子 |
| | 鳶野 克己 |
| | 小林 哲郎 |
| | 杳野 雄一 |
| | 福西 清次 |
| | 服部 憲児 |
| | 瀧端 真理子 |
| | 高 嶋 浩子 |
| | 石井 英真 |
| 会計監査 | 高根 雅啓 |
| 会計監査 | 松下 姫歌 |
| 筆頭幹事 | 久富 望 |
| 幹事 | 松本 いづみ |

(会計監査以外は卒業年度順)

令和4年度 京友会国際賞の選考結果

温氏の論文は、日本放送協会が1931年から1941年にかけて放送した中国語語学番組「支那語講座」の研究に取り組んだものであり、目で読むという漢文の訓読法を意識しながら、耳で聞く中国語の音声性が戦時中にもった意味を考察している。日中両国の相互理解の促進という研究の関心を活かし、語学学習の視点とメディア研究の方法を挑戦的に融合しており、国際賞にふさわしいと判断する。

馮氏の論文は、少女から成人女性への移行を考察し、彼女たちの実践が、学校教育で奪われた「女性性の回復」と、成人女性に押し付けられる規範的な女性に対する「創造的な越境」の交差点にあることを緻密な分析を通じて明らかにしている。中国社会における、少女から成人女性をとりまくジェンダー秩序に光を当てた試みは、蓄積が少ない研究領域において大変貴重なものであり、今後の研究の発展が大いに期待される。

藍氏の論文は、「教師の姿が見えることが学習成果に影響を与えるのは、教師の姿が学習すべきことに直接関係している場合に限られる」という仮説を検証しており、卒業論文とはいえ非常に質が高く、現在の重要な話題であるオンライン教育の実践に重要な示唆を与えている。また、母語でない英語で書かれ、大きな国際会議で発表することも評価できる。

以上のように、三本の論文をいずれも受賞に値する素晴らしい論文であると判断し、受賞対象とした。三人の研究生活が世界に向けてますます発展されることを期待したい。

2023年5月26日 審査委員 小林哲郎・石井英真

| 氏名 | 学年 | 論文題目 |
|-----------------------------|----|---|
| オン シュウエイ チョウゴク 温 秋穎 (中国) | D3 | 「日本放送協会「支那語講座」のメディア史 (1931-1941)：他者の言語はいかに想像されたか」 |
| ヒョウ カキン チョウゴク 馮 可欣 (中国) | D1 | ロリータを着て「少女」になる —少女期の追体験と女性性の回復の交差点にある中国のロリータファッション文化— |
| ラン イ ツ タイワン 藍 予智 (台湾) | M1 | The Effects of Instructor Presence in a Multimedia Language Learning Setting (マルチメディア言語学習におけるインストラクターの存在の効果について) |

令和4年度 京友会研究助成事業報告

助成期間 令和4年7月11日～令和5年3月31日

| 助成者 | 学年 | 講座 | 指導教員名 | 研究課題 |
|-----------------------|----|-----------|-----------------|--|
| ヨシオカ ユイ 吉岡 佑衣 | D1 | 臨床心理学講座 | 田中 康裕 | 日本人の夢感情の発達的变化に関する横断研究 |
| フジモト コウヘイ 藤本 航平 | D3 | 臨床心理学講座 | 田中 康裕 | ASD者の語りの意義 —物語にならない物語について— |
| オカノ ヒロヒト 岡野 裕仁 | M1 | 教育認知心理学講座 | 野村 理朗 | 社交不安と社会的比較志向性、マインドフルネスの関連 |
| アベ ユカリ 阿部 由香梨 | D1 | 教育認知心理学講座 | Emmanuel Manalo | Self-Efficacy of Japanese English Teachers on Critical Thinking Instruction in English Language Teaching (日本人英語教師の批判的思考力指導に関する自己効力感に関する研究) |
| トウ シ カン TAO ZHIHAN | M2 | 教育社会学講座 | 佐藤 卓己 | 大阪商船会社広報誌『海』のメディア史： 船旅にみるモダニズムとナショナルリズムの観光空間 |
| シマミ ユキ 嶋見 優希 | M3 | 臨床心理学講座 | 高橋 靖恵 | オンラインと対面での描画体験の比較検討 |

■吉岡 佑衣

この度は令和4年度京友会助成金をいただきました。誠にありがとうございます。私は夢の感情面に焦点を当て、その臨床的有用性を実証的に示す研究を行っております。睡眠中にみられる夢は、心理療法における治療的ツールであり、「夢分析」として広く用いられてきました。夢の感情は、夢見手のパーソナリティと深く関連しており、夢見手自身の感情的関心事が表れること、さらには覚醒時には認識できないような無意識的な感情まで表現されることが指摘されています。よって、夢の感情面に着目することには臨床上の様々な利点があると考えられています。

このように夢の感情が臨床的に重要であるにも関わらず、現状として日本では実証的な研究がほとんど行われていません。そのため、今回支援頂いた研究課題「日本人の夢感情の発達の変化に関する横断研究」では、基礎的な知見として日本人の様々な年代の人における夢の感情の特徴や差異を明らかにすることを主な目的としていました。

本研究課題で実施した研究としては、青年期・成人期・老年期の方を対象に、夢見の様相や最近見た夢、夢の中の感情について質問紙・オンライン調査を行いました。調査の結果から、老年期では夢の全体的な感情やネガティブな感情が減少することが明らかになりました。不安や恐怖などのネガティブな感情は青年期と成人期に多く体験されており、愛の感情は老年期に多く見られました。これらの結果は、加齢に伴った感情調節能力の発達や、自我の成熟過程を反映していると考えられます。

頂いた助成金は、オンライン調査の謝礼や、文献の購入に使用させて頂きました。本研究の成果は英語論文としてまとめ、学術雑誌に投稿しております。助成期間は終了しましたが、今後も本研究で得た知見を基にさらなる研究を進めることや、研究結果の発表に取り組んでいきたいと思っております。誠にありがとうございました。

■藤本 航平

これまで臨床心理学の分野において、自閉スペクトラム症（以下、ASDと表記）者のことばは、「語りにならない」などといわれ、いわゆる心理療法における物語的な枠組みから逸脱したものとして捉えられてきました。畑中（2011）がASD者が心理療法的な対話が困難な場合も少なくないと述べるな

ど、ASD者のことばは、その社会性の障害にも言及されつつ、心理療法の文脈では有意義な意味をもたないものとしてみなされる傾向がありました。

しかし藤本（2021）の言語連想法を用いた研究では、ASD者の特徴と捉えられる認知スタイルが特定のことばの連想傾向と関連する可能性が意味的側面から示されました。その結果はこれまでの「物語」パラダイムとはまた違った意味的把握の方略をASD者が用いている可能性が考えられました。

そのような文脈で、本助成を受け、文献を調査した結果、興味深い知見が得られました。

例えば認知科学の領域では、近年人間が眠っている間に見る夢に関する豊富な知見が蓄積されています。「可能性理解のためのネットワーク探索モデル」では、レム睡眠中には、人間の頭の中では普段あまり活用されない「弱い連想」に基づいたことばやイメージに関する連想が多用され、奇妙だが興味深いと感じる夢を見ると説明します。これは既存の知識から課題解決のための知見を新たに得る機能を持つと説明されます。例えばこのモデルを以上の文脈に当てはめると、興味深い可能性が浮かび上がってきます。まず独特のことばの傾向を持つと考えられるASD者は独特の奇妙な夢を見ている可能性があり、しかもそれは本人の課題解決に作用しうる、臨床的にも有用な独特の働きを持っている可能性があるということです。夢という媒体を用いることで、ASD者のことばの理解という文脈に新たな可能性が生じたと考えられます。

本助成を受けたことで、上記のような興味深い知見がいくつか得られました。それらの知見は今後、論文としてまとめていく予定です。改めましてこの度の助成事業にご採択いただき、本当にありがとうございました。

■岡野 裕仁

この度は、京友会助成金によるご支援を賜り、誠にありがとうございました。

本研究では、他者から注目されるような状況において生じる不安である社交不安と、他者と自分を比較する傾向である社会的比較志向性、および「今ここ」の瞬間に意識的に気づき評価的な判断を下さない傾向であるマインドフルネス特性という3つの変数間の関連を検討いたしました。

質問紙調査の結果、他人と自分を優劣の観点から比較するような傾向は、社交不安のリスク因子となるが、優劣の評価を含まない比較傾向は、社交不安

と正の相関を示さないということがわかりました。そして、マインドフルネス特性が高い人は、社交不安のリスク因子となるような優劣評価を伴う比較が少ない傾向にあるということがわかりました。これらの結果から、瞑想などのマインドフルネス特性を高める介入を行うことで、優劣評価を伴うような比較が減少し、社交不安が軽減するというモデル・可能性が示されました。

本研究の成果は、第39回日本認知科学大会、および第86回日本心理学会大会にて発表させていただきました。特に、日本心理学会大会では、多くの方に発表をお聞きいただき、有意義なフィードバックを得ることができました。さらに、現在国際誌への投稿を目指し、論文を執筆中です。

また、当結果を踏まえた上で、現在、マインドフルネス特性と関連する特性畏敬と社交不安の関連を検討する縦断調査を進めており、昨年12月に第1回の調査を実施しました。当縦断調査は次年度以降も引き続き実施する予定です。

頂いた助成金は、学会への参加費・旅費、および縦断調査のための書籍購入に当てさせていただきました。ご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

■阿部 由香梨

この度はご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。現在進行中の研究では、日本人の現役高校英語教師を対象とし、彼らが批判的思考力をどう定義しているのか、それを英語の授業の中で教えていくことについて自身の可能性・能力をどのように認知しているのかを調査しています。

研究の背景には、世界的に提唱されている、これからの時代で必要不可欠な「21世紀型スキル」の中に批判的思考力が入っていること、これを受けて日本の文部科学省もこの育成を学習指導要領などで提言していることがあります。こうした世界的潮流の中で、例えば日本の英語教育の中では意見を展開するライティングやスピーキングの指導を推進しています。一方で、文化的に「相手への反論を表明すること」「反対意見も含む多様な視点から議論すること」に対し、ためらいや抵抗を感じる人々がいることも事実です。データはまだ収集中ですが、アンケートの回答とインタビューの内容を基に、日本人英語教師がより効果的に批判的思考力の育成に関与していくための方策を検討していきます。

いただいた助成金の一部は、インタビュー参加者

に対する謝礼として活用させていただきました。各1時間ほどのインタビューの中で、批判的思考力の定義とその育成について、実践の共有、教員研修に関する考えなどをお聞きしました。忙しい現役教師の方々の時間を頂戴するにあたり、謝礼を十分に準備できたことは大変ありがたいことでした。

助成金の残りについては、分析を効果的に行うための資源の購入に充当させていただきました。貴重な量的・質的データを十分に分析するための手法にまつわる書籍や、音声データを効率よく文字起こしするためのソフトウェア、批判的思考力・自己効力感の評価にまつわる文献など、本研究の遂行に欠かせない資料を入手できています。

今回ご支援をいただきましたことで、一層実際の社会に還元される研究をしなくてはという気持ちを新たにしました。重ねて御礼申し上げます。

■TAO ZHIHAN

本研究は近代日本の船会社大阪商船会社が発刊した『海』を対象とし、そこで構築される船のイメージとそこでいかなる海事教育が行われたのかについて検討しました。

日本における海事教育の発端は、明治政府の海運振興政策にしたがい、船舶の運航に従事するいわゆる船乗りの養成から出発しました。本稿では「海事教育」を、商船学科の人材育成と航海訓練の専門教育ではなく、一般社会に向け、海事・海洋への関心を高めるといふ海事思想を普及することを目的として行われる社会活動と定義して扱いました。海事思想を出発点として、その歴史変遷と特徴を究明することが本研究の目的とします。

また、長距離飛行が財政的にも物理的にも不可能であった近代日本において、船は海外に行くための唯一の「越境する」交通方式であり、海と日本人を介在する重要な媒介であると考えられます。したがって、海事思想普及のための取り組みにおいて、船という重要な表象に重点をおいて、船のイメージ・船旅の実践的経験を提供するという海事教育の代表的な雑誌『海』を中心に、日本人向けの船をめぐるイメージ発信がいかに海事教育に寄与し、日本と海の関係性を構築したかという点に、本稿は関心を持っています。

歴史分析と質的分析の手法を用いる本研究によって、以下のことがわかりました。

初期の海事教育は必ずしも日本による領土拡張や軍事的進出と結びついたものではありませんでし

た。最初に海事思想は海事産業の重要性を主張する思想でありましたが、1890年代に入ると、日清戦争に獲得した大勝利に乗じて世界に膨張しつつある大日本帝国像が次第に浮かび上がるとともに、海事思想における海事産業振興の意味合いが薄まってきました。続いて「平和的時代」に入ると、海上生活の娯楽まで広めた海事教育が定着していました。

1924年から1936年までの『海』の性格や誌上で構築された船のイメージは、安全な船、文人趣味に合う船から過去向きの天皇が乗る船と未来向きの大東亜の船へと変化し、移民を鼓吹する「海に親しむ」海事教育から侵略の正当性を宣伝する「海に理解する」海事教育へと変わりました。それ以外、『海』の性格としては、海上旅行の広報誌から論説雑誌へという性格変化が見られました。

助成金につきましては、主に資料収集のための旅費および関連文献の購入に使わせていただきました。このような貴重なご支援いただき、本当にありがとうございます。

■ 嶋見 優希

私たち描画研究会では、オンラインカウンセリングと対面カウンセリングでの描画法における体験の違いについて、調査を通して検討してきました。

調査は、大学生・大学院生の計10名に、計2回の描画体験にご協力いただきました。調査協力者には、同じ部屋で検査者と対面して描画を行う「対面条件」の体験と、オンラインで繋ぎ画面越しに検査者と対面する「オンライン条件」の体験に参加いただきました。結果の分析の際条件が複雑に絡み合う

形となったため、調査結果は条件ごとに3つの視点から検討しました。その中でも「1回目にオンライン条件で描き、2回目に対面条件で描いた際の描画の変化」と「1回目に対面条件で描き、2回目にオンライン条件で描いた際の描画の変化」の比較では興味深い知見が得られました。

2回描画を描くことによって、どちらの条件も共通して、調査協力者である“描き手”と調査者である“見守り手（カウンセラー）”の間に安心できる関係性が生まれ、それによってより充実した絵を描こうとするといった描画の変化が見られました。加えて、1回目が対面条件で2回目がオンライン条件の場合は、通常のカウンセリングと同じく初めから「人に自分の中の表現をどのように見せるか」を意識した絵が描かれ、1回目と2回目で似た形状の木が描かれることが多かったです。一方1回目がオンライン条件の場合は、“見守り手”を物理的に身近に感じない分、「人に自分の中の表現をどのように見せるか」ということをあまり気にせず1回目に絵を描き、2回目に対面条件で出会った時に改めて「人に自分の中の表現をどのように見せるか」を考え直さなければいけないので、全く同じ指示のした描画を行うにも関わらず、描かれる木が大きく変化することが多かったです。対面で出会う場合にも、オンラインで出会う場合にも、描画の中で変化は起こりますが、出会い方によってその内容や質には違いがみられる可能性が示唆されました。

今回の研究結果をベースに、今後もオンラインと対面の違いについて検討を深めていきたいと思えます。この度は誠にありがとうございました。

令和5年度京友会研究助成事業選考結果

助成期間 令和5年7月10日～令和6年3月31日

応募は7件あり、申請書にもとづいての審査を行い、研究目的・研究計画・助成金の用途・研究業績書・指導教員の推薦書の記載にもとづき、研究内容の説明の明瞭性や研究計画・助成金の用途の妥当性などを協議した。

その結果、研究的な価値が認められ一定の水準に達していると判断された7件について採択し、1. 研究計画に示される研究方法についての明瞭性、2. 申請された助成金の用途の研究計画に対する妥当性、3. 募集要項に対する申請内容の妥当性、などを考慮し、予算上の上限額の範囲内で配分の判断を行った。

2023年5月26日 審査委員 瀧端真理子・服部憲児

| 助成者 | 学年 | 講座 | 指導教員名 | 研究課題 |
|---------------------------------------|----|-----------|-----------------|--|
| コイケ ヒカル 小池 光 | M2 | 教育認知心理学講座 | 野村 理朗 | 伝統芸能「能」実践者における内受容感覚への気づきに関する研究 |
| スガヤ ナオキ 菅谷 尚樹 | M1 | 教育・人間科学講座 | 明和 政子 | Still-Face パラダイムにおける親子間情動共制御に関する神経メカニズムおよび親子特性の検討 |
| ヤマグチ ヨウコ 山口 陽子 | M1 | 教育社会学講座 | 服部 憲児 | 学校改革における教頭の役割変化の可能性の解明 |
| カネコ ミチヒロ 金子 迪大 | D3 | 教育認知心理学講座 | 楠見 孝 | ウェルビーイング・フラグメントの統合的理解 |
| ハシモト ユウコ 橋本 由布子 | D3 | 臨床心理学講座 | 梅村高太郎 | 星と波テストにおける描画の日中比較 |
| パターソン レベッカ リー PATERSON REBECCA LEE | D3 | 教育認知心理学講座 | Manalo Emmanuel | 英語に対する正の感情が外国語スピーキング不安に及ぼす影響に関する研究 |
| ムラカミ ハカ 村上 遥 | M2 | 教育認知心理学講座 | Manalo Emmanuel | The Effect of Self Appraisal on EFL Motivation in L2 Motivational Self System (自己評価がL2 Motivational Self System のにおける英語学習のモチベーションに与える影響) |

令和5年度京友会研究助成事業助成対象者コメント — 助成を受けて —

■小池 光

この度は令和5年度京友会研究助成事業に採択していただき、誠にありがとうございます。

私は、「身体内部から生じる感覚」と定義される内受容感覚について研究を行っています。「胸が高鳴る」、「腹が立つ」といった慣用句にみられるように、身体と感情・認知の間には深い関係があります。内受容感覚は、こうした心身の関係を媒介する機構として注目を集めるトピックです。実際に、内受容感覚が鋭敏な人ほど自分の感情に気づきやすいことが知られており、そのことが感情制御や他者の感情の推察といったスキルの基盤となることが指摘されています。このような背景から、内受容感覚の鋭敏さを変容させる要因を解明し、介入方法の基礎となる知見を提供することで、教育や医療等、実社会に

貢献できるのではないかと考えました。修士課程における研究では、心身の結びつきを重視し発展してきた伝統芸能「能」に着目し、その実践が内受容感覚の変容とどのように関連するかを検討します。プロの能楽師（能の演者）を対象とし、心理尺度を用いた量的アプローチと自由記述による質的アプローチを組み合わせた調査を行っています。得られたデータについては、統計的に分析したうえで、学会発表や国際学術誌への投稿論文といった形で発信していく予定です。

いただいた助成金は、主に本研究に関する学会発表の費用に充てさせていただきます。ご支援をいただきましたことに改めて感謝申し上げますとともに、より質の高い研究を遂行できるよう尽力してまいります。

■菅谷 尚樹

この度は、京友会研究助成事業にご採択いただき、誠にありがとうございます。

私は、養育者との双方向的な交流が、乳児の感情を制御する力の発達に与える影響について、研究を行っております。

私たちは、日々の生活の中で、自分の感情を感じ取り、それをコントロール（情動制御）しながら、対人コミュニケーションを上手く行ったり、心身のバランスを保ったりしています。こうしたスキルは生後すぐから十全に備わっているのではなく、乳児期では特に、養育者との交流がこのスキルや情動発達を支えていると考えられています。

そして、親子交流においては、行動や身体内部の活動などの様々なリズムが自発的に揃うこと（親子同期）が知られています。そこで、私は、行動・心拍・脳における親子同期が、乳児の情動制御にどのような影響を与えるのか、脳波・心電計測を用いて実証しようとしています。また、親子の様々な特性を評価する質問紙を用いることで、親子同期やその情動制御への影響における個人差についても明らかにしたいと考えております。

親子同期と情動制御との関連や、それらに関する個人差について検討することは、様々な気質などの特性を持つ親子に対して、社会的場面における個別型の支援を考える上で非常に重要であると考えられます。

いただいた助成金は、質問紙・調査器材の購入や学会発表のための準備費用に充てさせていただきます。貴重なご支援に改めて深く御礼申し上げますとともに、本研究がより実りあるものになるよう、今後とも邁進していく所存です。

■山口 陽子

京友会の研究助成事業で助成金を頂戴できることに感謝申し上げます。

2年前に、本学に編入学いたしまして、この4月より、修士課程で学んでおります。定年まで、大阪の府立高校で勤務いたしておりましたので、そこの学校経営の実践知や暗黙知を理論知にしたいという思いで、卒業論文に取り組んでまいりました。修論では、これを基に継続して研究していく予定ですが、卒論の仮説以外に、学校改革の最前線に「教頭」の姿が見えないということが卒論の副次的な結果として見えてまいりました。そこで、修論とは別研究として、このことを解明したいと考えて

おります。題目を「学校改革における教頭の役割変化の可能性の解明」として、この助成金を活用して研究する所存でございます。

（研究の概略）

昨今、教員の働き方改革が叫ばれ教員のなり手も激減するなか、教頭への登用希望者も激減している。教頭としての現場経験から、仮説として、教頭が担う職務が主幹教諭配置以前とは変化して、教頭の長時間労働に代表されるような激務だけでなく、校長が学校改革において今まで教頭に求めていた役割の一部を主幹教諭に移行してしまったことで、さらにその業務は魅力を失っているのではないかと推測している。そこで本研究では、校長が教頭に学校改革推進において、期待する役割の変化の有無について解明することを糸口に、どのように校長が教頭と協働すれば教頭職が魅力的になるのか、その方策を明らかにしたい。

■金子 迪大

まずは、令和5年度京友会研究助成事業にご採択くださいましたこと御礼申し上げます。本助成を受けて、一層の研究実施に邁進して参りたいと存じます。

私の研究テーマはウェルビーイングです。特に、ウェルビーイングとは何か、そしてウェルビーイングをどのように上昇させることが出来るかについてこれまで研究を行ってきました。ウェルビーイングは近年産業界でも人気の概念で、日本語では幸福とも訳されます。簡単に言えば「善い状態」を意味します。善い状態という何を思い描くのでしょうか。人それぞれ異なるでしょう。実際、ウェルビーイングの心理学では様々な善さが提唱されてきました。その数は100種類以上にもものぼると推測されます。数が多いことはそれだけウェルビーイングについての理解を進める上で有用ですし、これまでウェルビーイング研究が進んできた証でもあります。しかし、多様な概念が提案されていることでウェルビーイングとは何かということが見えにくくなってしまっています。そこで私はウェルビーイングを構成する様々な概念について、どのようなまとまりにまとまるのかを実証的に検討してみたいと思っております。それによりウェルビーイング概念を整理して、測定や介入にとって便利な形でまとめ直すことで、研究のみならず社会における実践でも使用されるような尺度を新たに作成できることを期待しています。

■橋本 由布子

この度は、私たちの研究「星と波テストにおける描画の日中比較」に助成をいただきましてありがとうございます。

「星と波テスト」は、ドイツの心理学者ウルスラ・アヴェ＝ラルマンによって1979年に開発された心理検査で、A5判の小さな紙の上に「星と波を描く」ことで簡易に、そして年齢を問わず行うことのできる描画法です。この描画では「夜」がテーマになることで深層心理が表れやすいと言われており、「特定の文化には影響されない」とも言われています。しかし、私たちの体験世界はそれぞれの育ってきた文化の上に成り立ち、それは描画にも表れると考えるのが自然ではないでしょうか。

幸いにも、新型コロナウイルス感染症のもと途絶えていた海外との交流が復活する今年、私たちは中国で開催される、描画を含む芸術療法に特化した学会に、ワークショップを提供する機会を得ました。そこで、中国において星と波テストを実施し、かつワークショップでディスカッションすることを通じて、描画に現れる普遍性や差異を明らかにしたいと考えました。私たちの研究から、日本と中国、互いの文化への理解が深まり、日中の心理臨床家の交流から芸術療法の発展に微力ながら寄与できればと考えています。

いただいた助成金は、8月の渡航費と資料の翻訳や通訳、現地での通信費等に使用させていただく予定です。ご支援に感謝いたします。

■PATERSON Rebecca Lee

令和5年度京友会助成を採択頂き誠にありがとうございました。

ご提供頂く助成金により、博士論文のための第2実験が実施出来るようになっただけでなく、貴会を介し多くの人々に研究を知って頂ければ幸いです。博論の趣旨を説明すると、外国語スピーキング不安の認知メカニズムを理解し、新しい対策法または教育法をデザインすることである。本実験では、英語学習者の一般的な認知能力と英語に対するポジティブな気持ちに関する個人差の要素に注目し、脳活動を測定しながら、外国語スピーキング不安を和らげるのに役立つ要素を明らかにする。ご提供頂く助成金を実験協力者の謝礼金として用い、1人につき約90分の参加に1500円を提供する予定である。実験は認知タスクと英語スピーキングタスクを含む。主要の仮説としては、英語に対して最もポジティブな感情を抱いている参加者は、不

安が引き起こされた場面に置かれても、認知タスクと英語スピーキングタスクのパフォーマンスに退化が見えず、認知負荷を表す脳活動の程度は低いと予想している。その理由として、ポジティブ感情は認知メカニズムを促進させ、不安の悪影響を和らぐ効果があるといわれることが挙げられる。外国語スピーキングにポジティブ感情を用いることが有効であれば、円満なコミュニケーション能力を育み、国際交流に繋がる点で、本研究は外国語教育に貢献できると考える。

■村上 遥

この度は、研究助成に採択いただき、誠にありがとうございます。私は、日本人の英語学習におけるモチベーションについて関心を持って研究をしています。

外国語学習におけるモチベーションは、「外国語を学びたいという気持ち」と「外国語学習を続けたいという気持ち」を促進することから、外国語学習の成功の鍵を握るため必要不可欠なものであるとされています。現在に至るまで、外国語学習におけるモチベーションは様々な観点で捉えられてきました。その中で現在私が注目しているのは、外国語を使用して叶えたい「理想の自己」と「現在の自己」の間にある乖離を埋めようとするため学習努力をする、という「自己」の観点に注目したモチベーション理論です。学問に関する「自己」は、課題におけるパフォーマンスから自身の能力を理解することで構築されています。しかしながら、人々は自身の能力を完璧に評価することができず、過大評価や過小評価する傾向にあることがわかっています。

こうした背景から、現在、自己評価を通して構築される「理想の自己」と「現在の自己」が英語学習モチベーションに与える影響を研究しています。これまで英語学習のモチベーションを向上させる方法は、指導方法や教材を工夫することで学生の興味を引き出すことに焦点が当てられていました。しかし、多くの場合学習者は英語を使えるようになりたいと願いつつ、必ずしも英語という科目に興味を持っている訳ではありません。そのため、本研究において自己理解とモチベーションの関係を明らかにすることで、将来的に、従来の「興味」という側面だけでなく、「自己理解」という側面から日本人学習者の英語学習モチベーションの向上に貢献できればと考えております。

頂いた助成金は調査費用に充てる予定です。ご支援に改めて深く御礼申し上げますとともに、本研究が実りのあるものとなるよう尽力していく所存です。

追悼

齋藤久美子先生を追悼して

連携教育学講座（臨床教育実践研究センター）・教授 松下姫歌

齋藤久美子先生が令和4年11月2日に逝去されました。京友会の皆様の中には、先生と学生生活を共にされた方も、先生の薫陶を受けられた方も多数おられることと存じます。私自身にとっても、齋藤先生は、教育学部・教育学研究科の大先輩であり、学部生・大学院生時代を通じてのかけがえのない恩師の一人です。同じ専門分野である、心理臨床学界の発展と学問的深化を長年にわたり支えてこられた重鎮でもあります。その思いがけない訃報に接した瞬間、茫然とするしかありませんでした。喪失感の大きさに、齋藤先生の存在がいかに自分にとって大きなものだったかをあらためて思い知らされました。この悲しい報せを関連の方々にお伝えする過程でも、多くの方々が同様の思いを吐露されていました。

齋藤先生は、どこか世俗の老若男女を超越したような高貴なたたずまいと、ユーモアに溢れた人間味を併せ持つ方でした。そして何より、心というものの本質に常に開かれ、常に新鮮に出会っていかれる、温かな瞳が思い出されます。学部時代は「児童・青年心理学講義」等のご講義やコロキアムのコメント等で、齋藤先生がよく練り上げられた思想体系と視点の鋭さや細やかさに驚嘆していましたが、大学院に入って、齋藤先生の専門的アプローチの真の意味での開放性と柔軟性に衝撃を受け、目を開かれました。それは、理論を対象に当てはめて理解するようなあり方とは全く異なるものでした。齋藤先生は、対象が表現しているものそのものに心を添わせ、既存の枠や、おそらく齋藤先生自身がお持ちの理解の枠組をも越えて、対象そのものに開かれていくことに、驚くほどに長けておられる方でした。だからこそ、対象の発しているもの、内包しているものに、的確

にアプローチでき、それまで見えなかった面が見え、新たに出会っていくことができるのだと感じています。

齋藤先生の心の瞳は、狭い意味での人間の心だけではなく、植物や動物などの生きものの営みや、人間や生きものが生み出すものにも、等しく注がれていました。授業から授業へ、講義室を移動する間にも、キャンパスの木々を見ながら「木って、あんなに大きく育って、伸びて、あんなに枝分かれしていつているのに、倒れてしまわないのって凄いわよね。そう思いませんか?」といった問いかけをされることもしばしばでした。いつも世界に新鮮に出会い続けておられる先生でした。齋藤先生のあの瞳に今も教えられ、支えられています。長い間お世話になり有難うございました。齋藤先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

【齋藤久美子先生 御略歴】昭和33年京都大学教育学部卒業、昭和38年大阪市技術吏員（大阪市立児童院）就任。昭和42年京都大学大学院教育学研究科博士課程修了（京都大学教育学博士）。四天王寺女子大学文学部助教授、京都府立大学文学部助教授、ウィリアム・アランソン・ホワイト精神分析研究所特別研究員を経て、昭和59年京都大学教育学部助教授、昭和63年同教授。平成11年3月退官、京都大学名誉教授。同年4月甲子園大学人間文化学部教授。課程博士学位論文「『自我機能』と『現象的自己』の二つの枠組による人格適応の研究：ロールシャッハ法と自己評価法の統合的使用を試みる累積的研究」（教博第3号・昭和42年1月23日）。齋藤久美子著作集『臨床から心を学び探究する』（岩崎学術出版社）。